

企業の社会的責任(CSR)への取り組み

大阪ガスグループは企業の社会的責任を全うし、大阪ガスグループが持続的な発展を図っていくため、「大阪ガスグループCSR憲章」・「大阪ガスグループ企業行動基準」を定め、またCSRの取り組み推進と「見える化」のために「CSR指標」を策定しています。

社長のもと、役員などがCSRに関する活動計画および活動報告の審議を行う「CSR推進会議」、大阪ガスグループのCSR活動を統括する役員「CSR統括」のもと、組織長が委員となり組織横断的な調整・推進を行う「CSR委員会」を設置し、適切かつ積極的な活動の実践に努めています。



▶ 組織図はP.44-45をご参照ください。

大阪ガスグループ「CSR指標」

| CSR憲章 | CSR指標(2013年3月期-2014年3月期) | 2014年3月期実績 |
|------------------------|--|--|
| I お客さま価値の創造 | 「お客さま満足度」 総合満足度：85%以上 対象となる7つの顧客接点業務全てで82%以上 (サービスレベルの均質化) | 「お客さま満足度」 総合満足度：91.0% 対象の7つの顧客接点業務全てで82%以上達成 |
| II 環境との調和と持続可能な社会への貢献 | 「環境経営指標」 環境経営効率：68円/千m ³ 以下 | 「環境経営指標」 環境経営効率：60円/千m ³ |
| III 社会とのコミュニケーションと社会貢献 | 「コミュニケーション活動」 実施回数(環境・食コミュニケーション活動)1,000回 接点数(科学館などの常設施設来場者数)70,000人以上 「社会貢献活動」 実施回数600回以上 | 「コミュニケーション活動」 実施回数(環境・食コミュニケーション活動)2,068回 接点数(科学館などの常設施設来場者数)70,087人 「社会貢献活動」 実施回数692回 |
| IV コンプライアンスの推進と人権の尊重 | 「コンプライアンス意識調査スコア」 (個人)企業行動基準理解度：対前年向上 (組織)組織の「体質化」度：対前年向上 「コンプライアンス研修受講率」100% | 「コンプライアンス意識調査スコア」 (個人)企業行動基準理解度が前期より向上 ▶ 73.8%(対前期比+2.4P) (組織)組織の「体質化」度が前期より向上 ▶ 86.0%(対前期比+3.2P) 「コンプライアンス研修受講率」100% |
| V 人間成長を目指した企業経営 | 「社員意見調査」 やりがい、愛着度の適正水準維持 | 「社員意見調査」 2014年3月期調査未実施(次回2015年3月期調査予定) |

大阪ガスグループ企業行動基準「私たちの宣言」

- 1 人権を尊重し、安心・快適に働ける職場を実現します。
- 2 法令を遵守し、良識に従い業務を遂行します。
- 3 グローバルな事業活動において、各国・地域の法令、人権に関するものを含む国際規範を尊重します。
- 4 地球環境に配慮して行動します。
- 5 公正な取引・競争を行います。
- 6 安全で高品質な商品・サービスを適正な価格で提供し、お客さま満足の向上に努めます。
- 7 関係先・取引先との交際は、節度を守り良識の範囲で行います。
- 8 情報の価値・重要性を正しく認識し、適正に取り扱い、公開します。
- 9 反社会的勢力との関係を遮断します。
- 10 適正な納税と経理処理を行います。

大阪ガスグループダイバーシティ推進方針

大阪ガスグループでは、女性、高齢者、障がい者、外国人、性的少数者などに対する活躍支援を進めています。少数派であるがゆえの不利益が生じることのないよう配慮し、より一層の能力発揮に向けた環境整備を行います。

大阪ガスでは、女性活躍をダイバーシティ推進の試金石と位置づけ、総合職採用人数に占める女性比率30%以上の継続、および、2020年までに女性管理職比率を5%にすることを目標としています。

また、大阪ガスは「平成25年度なでしこ銘柄」に選定されました。



「なでしこ銘柄」とは東京証券取引所と経済産業省が「女性を積極的に登用している企業」を東証一部上場企業から選定するものであり、管理職に占める女性の割合などの女性のキャリア支援、男性従業員の育児休業取得率などの仕事と家庭の両立支援の二つの側面をスコア化した上で、財務状況(株主資本利益率(ROE))などを選定基準としています。

環境行動目標

大阪ガスグループは、環境経営の進展を継続的・一元的に評価する「環境行動目標」を指標として策定し、運用しています。

| 分野 | 環境行動目標 | | 2014年3月期末に向けた目標* | 2014年3月期末実績 |
|-------|--------------|---|---------------------------|-------------|
| 総合指標 | 環境経営効率 | 都市ガス事業のガス販売量あたり環境負荷 (GHG、掘削土、廃棄物、NOx、COD、化学物質、水の金額換算値(円)/ガス販売量(千m ³)) | 68以下(-26%) | 60 |
| 低炭素社会 | 都市ガス事業 | 製造所 (ガス販売量当たりCO ₂ 排出量t-CO ₂ /百万m ³) | 12.3以下(-5%) | 10.1 |
| | | オフィスビル (床面積当たりCO ₂ 排出量t-CO ₂ /千m ²) | 75.9以下(-6%) | 66.3 |
| | グループ会社の事業 | 発電事業(再生可能エネルギーの電源も含む) (発電量当たりCO ₂ 排出量) | 2021年3月期時点で 2009年3月期比-15% | -31% |
| | | それ以外の事業 (売上高当たりCO ₂ 排出量t-CO ₂ /千万円) | 10.3以下(-3%) | 8.7 |
| 資源循環 | 都市ガス事業 | 製造所産業廃棄物(最終処分率) | 0% | 1.0% |
| | | オフィス産業廃棄物(最終処分率) | 2%以下 | 1.2% |
| | | 製造所、オフィス一般廃棄物(最終処分率) | 5%以下 | 2.8% |
| | | 導管工事掘削土(最終処分率) | 2%程度 | 1.2% |
| | | ポリエチレン管(リサイクル率) | 100% | 100% |
| | | ガスメーター(リユース率) | 97%以上 | 99.3% |
| | グループ会社(中核会社) | 産業廃棄物・一般廃棄物(最終処分率) | 9%以下 | 9.5% |

*2014年3月期末に向けた目標の()は2009年3月期比の変化率。ただし、グループ会社の事業(それ以外の事業)の目標については、2010年3月期比の変化率。

GRIガイドライン第4版 (G4ガイドライン)への対応

2013年5月に発行されたGRIガイドライン第4版を踏まえ、さらなる取り組み推進と情報開示を進めていきます。なお、2014年3月期は、外部の様々な有識者との対話を行いながら、大阪ガスグループにおける「CSR重要課題(マテリアリティ)」の選定を行いました。

大阪ガスグループにおけるCSR重要課題(マテリアリティ)



SRIインデックスへの組み入れ状況

大阪ガスは、2014年3月末時点で、以下のSRI(社会的責任投資)関連インデックスに組み入れられています。

MEMBER OF
Dow Jones Sustainability Indices
In Collaboration with RobecoSAM

Dow Jones Sustainability Indexes



Ethisbel Excellence Index



FTSE4Good

FTSE4Good Index Series



MSCI ESG Indexes



ECPI® Indices



MS-SRI



▶▶ CSRに関する詳細は「大阪ガスグループCSRレポート2014」をご参照ください。